

『履歴書』《記入例》



(その1)

(No. 1)

履 歴 書				
フリガナ	ヤシマ タロウ	男・女	生年月日(年齢)	昭和 年 月 日(満 才)
英 字 氏 名	Yashima Tarou			
氏 名	八洲 太朗			
国 籍	外国籍の方は国名を記入		現 住 所	
学 歴				
年 月	事 項			
和暦 年 3 月	××大学××学部卒業			
和暦 年 4 月	××大学大学院××研究科修士課入学			
和暦 年 3 月	××大学大学院××研究科修士課卒業(××学修士学位を取得)			
和暦 年 4 月	××大学大学院××研究科博士課程入学			
和暦 年 3 月	××大学大学院××研究科博士課程単位取得満期退学(3)参照			
和暦 年 3 月	××大学・博士(××学)学位を取得(5)参照			
和暦 年 3 月	××士資格認定協会「××士」(登録番号第××号)(5)参照			
<p style="color: red;">『学歴』の欄・・・記入上の注意事項</p> <p>(1) 大学若しくは高等専門学校又はこれらと同様以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する方は、学歴のすべてについて記入してください。その他の方は、最終学歴を記入してください。</p> <p>(2) 中途退学の場合でも省略せずに記入してください。</p> <p>(3) 博士課程を出て未だ博士号を取得していない方は、「博士課程単位取得満期退学」と記入してください。</p> <p>(4) 大学の別科、専攻科については『学歴欄』に、研究生、聴講生は『職歴欄』に記入してください。</p> <p>(5) 学位・称号を記入してください。</p> <p>(6) 外国における資格については正確に記入するとともに、その内容について併記してください。</p> <p>(7) 外国留学については、学生としての留学の場合は『学歴欄』に、研究者としての留学の場合は『職歴欄』に記入してください。</p>				

『履歴書』

(No. 2)

職 歴	
年 月	事 項
和暦 年月	××大学講師(××学) (1~4)参照
和暦 年月	××大学助教授(××学)
和暦 年月	××大学教授(××学)(~和暦 年 月)
和暦 年月	××大学△△学部教授(××学)(~現在に至る)
和暦 年月	××大学△△学部長(~現在に至る)
(前審査) 和暦 年月	<p>[大学設置・学校法人審議会(旧大学設置審議会を含む)教員組織審査判定(5)参照 ××大学××学部の設置審査に伴う、教員資格審査において、××学Ⅰ、××演習担当の専任教授として適格判定</p> <p>『職歴』の欄・・・記入上の注意事項</p> <p>(1) 職歴のすべてについて在職期間が明確になるように記入し、職名、地位等についても明記してください。</p> <p>(2) 現職については必ず「現在に至る」と明記し、また、自営業、主婦、無職等についても省略せずに記入してください。</p> <p>(3) 大学の教員の職歴については、主な担当科目を()で付記してください。</p> <p>(4) 担当科目に直接関係のある職歴については、できるだけ具体的に記入してください。</p> <p>(5) 過去における大学設置・学校法人審議会(旧大学設置審議会を含む)の教育組織審査において教員の資格があると認められている者は、同欄に該当教員組織に係る大学名、審査の年月、専任、兼担、兼任、職名及び担当授業科目名を記入してください。</p> <p>(6) 大学院にあっては、判定結果「マル合・合・可」を記入してください。</p> <p>※過去に新設の大学、短期大学、若しくは新学部、新研究科等に所属されていた方(新大学等の設置認可申請時に専任教員として就任された方、若しくは新大学等の設置認可、開設後、学年進行が完成するまでの間に専任教員として採用された方)は、「大学設置・学校法人審議会(旧大学設置審議会を含む)」の教員組織審査を受けられた可能性があります。お心当たりがございましたら、本務、前任校にお問い合わせください。</p>

『履歴書』

(No. 3)

学会及び社会における活動等	
年 月	事 項
現在所属している学会	所属している学会の名称を記入してください。
和暦 年 月 和暦 年 月	<p><学会活動></p> <p>××学術会議××学研究連絡委員(～和暦 年 月)</p> <p>日本××学会(現在に至る)</p>
和暦 年 月 和暦 年 月	<p><社会活動></p> <p>国立××センター倫理審査委員(現在に至る)</p> <p>大学入試センター専門委員会××部会長(現在に至る)</p>
	<p>『学会及び社会における活動等』の欄・・・記入上の注意事項</p> <p>(1)本人の専攻、研究分野等に関連した事項について「学会活動」、「社会活動」等に分けて記入してください。なお、教育研究上の業績を有する場合は、その内容も具体的に記入してください。</p> <p>(2)所属学会名は正式の記入してください。</p> <p>(3)『職歴』欄と同様に所属期間及び現在も所属しているものについては「現在に至る」と記入してください。</p>

『履歴書』

(No. 4)

賞 罰				
年 月	事 項			
和暦 年月	××研究奨励賞(『×××論』による)			
職 務 の 状 況				
勤務先	職名	学部等又は所属部局の名称	担当授業科目の名称	備 考
××大学	教授	××学部××学科	××演習(1)	
記名日現在における職務内容の状況についてご記入ください			××演習(2)	
■■大学	非常勤講師	××学部××学科	×× I	
上記のとおり相違ありません				
平成 年 月 日				
氏 名				⑩

『教育研究業績書』

(No. 2)

<p>※年月日順(過去→現在)でご記入ください。</p> <p>3. 該当教員の教育上の能力に関する大学等の評価</p>		<p>「3.教育上の能力に関する大学等の評価」の注意事項 ご自身の教育上の能力に関する客観的評価を記載してください。</p> <p>例1 各大学での自己点検・評価の一環として、教育面で高い評価を受けた事実</p> <p>例2 採用決定の際等における教育上の能力に関する評価</p> <p>例3 学生により授業評価、教員同士の相互評価等をまとめたもの</p> <p>例4 学外も評価機関等が行った評価</p> <p>例5 上記以外で、学長、学部長、学内諸機関等が行った評価</p>
<p>4. 実務の経験を有する者についての特記事項</p>		<p>「4.実務の経験を有する者についての特記事項」の注意事項</p> <p>例1 大学から受け入れた実習生に対する指導歴</p> <p>例2 企業内教育等、講師としての講座の概要</p>
<p>5. その他</p>		<p>「5.その他」の注意事項 上記1～4に該当しない事項について幅広く記載してください。</p>
<p>職務上の実績に関する事項</p>	<p>年 月 日</p>	<p>概 要</p>
<p>担当授業科目に関する「職務上の実績に関する事項」を年月日(過去→現在)で簡潔に記入してください。</p>		
<p>1. 資格、免許</p>		<p>「1.資格、免許」記入上</p>
<p>「1.資格、免許」記入上の注意事項 資格について、担当する教育の内容に関するものなど、特に審査に関連すると思われるものについて記載してください。</p>		
<p>2. 特許等</p>		
<p>「2.特許等」記入上の注意事項 本人の担当する教育内容等に関連した事項について記載してください。</p>		

『教育研究業績書』

(No. 3)

<p>※年月日順(過去→現在)でご記入ください。</p> <p>3. 実務の経験を有する者についての特記事項</p>		<p>担当授業科目に関連する取引、プロジェクト、社内業務において果たした役割、契約書作成・交渉等について記載してください。</p>
<p>「3.実務家教員についての特記事項」記入上の注意事項</p> <p>実務経験の記載方法については、「職歴」欄に記載した事項を中心に、担当する授業科目に対応した下記の事項等を参考に記載してください。</p> <p>①従事した期間</p> <p>②職務内容</p> <p>③成果、結果</p> <p>(職務上の実績の項目例)</p> <p>○企業、官公庁等の研究の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発した新製品、製法、作物等の新品種などの概要 ・大学との共同研究により研究実績がある場合、その概要、成果、当該研究者の役割 <p>○その他、企業、団体等関係者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際援助、開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実績に従事しら実績 <p>○情報技術者関係の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターに係る職務歴(職務上のコンピューター活用法、ソフト、システム開発歴) <p>○マスコミ関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執筆した記事の概要 ・作成した番組の概要 <p>○医師や看護師等医療技術者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例研究会での発表等の活動 <p>○福祉その他社会活動の関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した活動や団体の名称、活動内容、期間本人の該当活動における地位 <p>○スポーツ等実技関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導者としての経歴、実績、資格 <p>○博物館、美術館等関係者の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当した展覧会、執筆・監修した展覧会図録の概要 <p>○その他全般を通じて</p>		
<p>4. その他</p>	<p>上記1～3に該当するもの以外の事項について幅広く記入してください。</p>	

『教育研究業績書』

(No. 4)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				<p style="color: red;">「著書」「学術論文」及び「その他」の順に区分し、それぞれ年月日に（過去→現在）に、区分ごとに番号を付して記入してください。</p>
(学術論文)				<p style="color: red;">「著書、学術論文等の名称」記入上の注意事項</p> <p style="color: red;">(1) 著書等は『 』で囲い、学術論文は「 」で囲んで統一してください。また、発行所は無囲いとし、発表雑誌等又は発表学会等の名称は『 』で統一してください。</p> <p style="color: red;">(2) 「概要」には、著書、学術論文等の概要及び項数について、各著書、学術論文等ごとに明確かつ簡潔に 200 字程度で記入してください。</p> <p style="color: red;">(3) 共著の場合は、ご自身の担当部分の概要及び項数（例：p〇〇～p〇〇）を明記し、ご自身の氏名を含め著作者全員の氏名を該当著書、学術論文等に記載された順に記載してください。（例：編集者△△△△、分担執筆〇〇〇〇、□□□□、××××）</p> <p style="color: red;">なお、共著の場合でご自身の担当部分を明確にできないときは、その理由を明記してください。（例：共同研究につき本人担当部分抽出不可能）</p> <p style="color: red;">また、筆頭論文である場合は、その旨明記してください。</p>
(その他)				<p style="color: red;">(4) 一冊の本を数人で執筆した場合は該当部分が単著であっても共著として記入してください。</p> <p style="color: red;">(5) 学位論文については、その旨が明確になるように記入してください。</p> <p style="color: red;">(6) 発表学会誌等は、その名称の他、巻・号等まで明記してください。</p> <p style="color: red;">(7) 著書、学術論文等で発行又は学会誌等で発表予定のものについては、その旨を明記し出版社や学会からその旨の証明書（出版証明書）を添付してください。なお、書類提出時以降に投稿予定のものは含めないでください。</p> <p style="color: red;">(8) 「作曲」に係る業績については、出版の日付と発行所及び初演の日付と会場を記載（再演は不要）してください。また、「美術」に係る業績について作品を提出する場合は、別途 1 部用意してください。なお、作品集については、返却可能ですので、提出時にその旨を申し出てください。</p>